

## いりやまじょうせき 「入山城跡」

- 指 定 千曲市指定史跡 昭和 62 年 1 月 27 日
- 所 在 地 千曲市大字新山 1,420 番地ほか
- 所 有 者 個人
- 概 要 山城跡 5つの郭と複数の腰郭、4本の空掘  
寸法 東西 110m×南北 15m 面積約 1,650 m<sup>2</sup>
- 時 代 戦国時代
- 公 開 いつでも可

入山城跡は新山城跡あらやまじょうせきともいわれ、新山うるしばらと漆原こえどやまの間に越戸山の尾根が東北にのびていて、その端近くの小さな頂いただきに構築された連郭式の山城です。おそらく寄合氏、入山氏、横山氏、安藤氏などによって代々受け継がれた山城とみられています。

規模は小さいが本郭から五の郭までの5つの郭と土塁どるい、これに付随する腰郭こしぐるわ、4本の薬研堀やげんぼり、足跡池から水を引いた痕跡の土塁状の高まりなど、全ての遺構が良好に残っています。保存の状況もよく村上氏系の豪族によって代々維持されたものと考えられ、四十八曲しじゅうはちまがり峠とうげを越える道をおさえるための要害と伝えられています。

